**平成30年度　事業計画**

平成27年度4月より臨床検査技師法の一部改正がなされ「検体採取等に関する厚生労働省指定講習会」が全国9ブロックの会場で開催され、沖縄県での開催は平成29年度(4回目)を終了しました。沖縄県の受講率は、現在まで全国平均56％を上回る72％です。引き続き、平成30年度は、9月16日（日）から17日（月）敬老の日での開催です（会場：琉球大学医学部臨床講義棟1Ｆ小講義室）。未受講者の会員、受講されますようお願いいたします。

　一方、診療報酬でも臨床検査技師が検体採取（鼻腔拭い液等）を実施すれば診療報酬で5点がつきます。臨床検査技師が行うことで検査の精度が上がり迅速に検査できるという理由からです。また、医療制度の中で今後の臨床検査技師の活躍の場として、病棟業務への参画は極めて重要な課題としています。

臨床検査技師の職域も検査室内から病棟へと、より患者の身近で検査業務が実施できるように、「病棟業務に必要な能力開発実践研修会」も全国的にも展開しております。会員の皆さん研修会への参加をお願いいたします。将来、病棟臨床検査技師配置の要件を目指し、チーム医療連携、実績を重ね診療報酬に反映できるような取り組みとなっております。

　さらに、当会の大きな事業の一つに、沖縄県医師会臨床検査精度管理調査事業があります。沖縄県は、全国的に施設間差もなく、現在でも精度が高い位置にあります。しかし、国内においては、医療機関が自ら実施する検体検査の精度管理等については、法令上の規定がないのです。以上のことから検体検査業務の適正な業務を行うための施設の構造設備、検体検査の精度の確保、方法等の基準を設け、精度管理事業に関する法的基準設定の整備が進められています。近年中には、省令が施行される予定です。省令が施行されれば、臨床検査技師の地位がさらに向上すると思われます。

**沖縄県臨床検査技師会の主催事業**

地域ニューリーダー育成研修会（2日間）

＜目的＞社会情勢や国の重点政策を学ぶとともに、医療情勢や課題解決力、計画立案法を習得し人材育成を目指す。

**沖臨技・日臨技共同事業**

医療現場における職能向上のための臨床検査技師育成講習会（平成30年度から3年継続事業：日臨技

から助成金あり）

＜目的＞臨床検査室から外来や病棟へ多職種を知る。

・検査説明手法・輸血療法の現状管理・モニター輸液ポンプ等の管理・検査技師に必要な検体採取技術、

患者移送技術・多職種とコミュニケーション等

**日臨技企画**

がんゲノム医療コーディネーター取得に向けた講習会

＜目的＞がんゲノム医療コーディネーターに必要とされる、遺伝子パネル・遺伝性腫瘍等の基礎知識を

はじめ、患者・家族対応の基本技能を習得する。がん診療連携病院、認定臨床病理技師配置要件

も必須条件となる可能性あり。

**日臨技主催と九州支部が企画**

初級・職能開発講習会（卒後3年～5年程度の臨床検査技師を対象：日臨技主催と九州支部が企画）

＜目的＞早い段階から臨床検査ならびに医療を取り巻く環境の変化を的確に把握し、時代の先取り出来

る医療人、職能人としてのスキルアップを図る。

**今後の臨床検査技師の展望**

“現状維持から発想の転換へ”

将来、臨床検査技師病棟配置で看護師と業務を連携・検査実施する時代が到来する。（簡易血糖検査、便採取、病棟採血、輸血療法開始時の確認、検査説明、生理検査等）

**【総務関係】**

1. 組織運営の強化

　1）日臨技、九州支部、各都道府県技師会との連絡・連携体制の構築及び維持。

　2）会員数は800名を超えているが、引き続き継続会員、新入会員の確保に努める。

　3）日臨技企画講習会、認定等の効率稼働をはかる（会員への啓蒙）。

　5）行政庁、他医療関連団体との交流を密にし、連携をはかる。

　6）財務管理の徹底と強化。

　7）各種委員会の円滑運用の補助。

2. 情報、連絡網の強化

　1）定期便の活用（会員および賛助会員への情報提供）

　2）会員名簿管理と有効活用

　3）先島地区の情報共有と学術支援

　4）日臨技会員専用サイトの活用普及と情報更新の促進

3. 広報活動

　1）沖臨技ホームページの充実（円滑運用、リアルタイムな更新）のための補助

　2）各種メディアの活用

4. その他

　　　1）公益目的支出の計画的運用

　　　2）事務員の効果的業務運用と就業環境整備

　　　3）沖臨技会誌の継続発行

　　　4）各賞受賞・祝賀会の開催

　　　5）渉外、学術と協働した事業の推進

6）「検体採取等に関する厚生労働省指定講習会」定員：50～100名

日時：平成30年9月16日（日）、17日（月）予定。

場所：琉球大学医学部臨床講義棟1F

　　　7）日本臨床検査技師連盟沖縄県支部活動への協力

**【渉外関係】**

1. 平成30年度第53回日臨技九州支部医学検査学会開催（担当：大分県）に向けた県内の啓蒙活動

日時：平成30年10月6日（土）～7日（日）、場所：別府国際コンベンションセンターB-Con Plaza

2. 第10回新人宿泊研修会に向けた啓蒙活動

日時：平成30年６月30（土）～7月1日（日）、場所：ペンションきちむい

3. 公益事業の継続

　　 1）なごみ会県民健康フェア（平成30年8月19日予定）

　　 2）日臨技公益委託事業

　　　　　　・検査と健康展事業（11月予定）

　　 3）ピンクリボン2018沖縄イベント協力（10月予定）

　　 4）県民健康公開講座（健康運動指導士会主催）への協力

4. 他医療団体との連携活動

　　 1）各種関連団体主催行事などへの参加協力

　　 2）沖縄県保健医療連合（なごみ会）や沖縄県医療推進委員会への参加

　　 3）沖縄県公衆衛生協会、小児保健協会への協力

　　 4）関連団体の新年会・祝賀会等への参加

5. その他

　 1）会員相互の親睦を深める行事の取組み

2）沖臨技発展のため必要な事業を行う

**【学術関係】**

1. 平成30年度第54回 沖縄県医学検査学会

・会期：平成30年5月27日（日）

・会場：琉球大学医学部臨床講義棟・保健学科棟

・学会テーマ：「求められる検査室～新たな展開～」

・学会長：運天 芳浩（沖縄協同病院）、実行委員長：山城 篤（那覇市立病院）

・学会誌編集長：天願 聖子（那覇市立病院）

・特別講演

　　「これからの臨床検査技師は何をしなければならないのか」

　　　講師：丸田 秀夫（日臨技常務理事、佐世保中央病院）

・教育講演

　　「乳児股関節エコーの重要性」

　　　講師：金城 健（沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 小児整形外科）

・実技講習（微生物）

　 　｢グラム染色パニック値報告の重要性｣

　　　講師：八幡 照幸（沖縄県立中部病院）

・一般演題34演題

2. 部門別検査研究分野の運営

今年度も日臨技に準じて、9部門14分野の学術活動（研修会・講演会等）で運営して行く。また、沖縄県医師会精度管理調査委員会から実行委員長、副実行委員長も、今年度から学術委員として位置付ける。

＜部門別検査研究分野＞

|  |  |
| --- | --- |
| 部門 | 分野 |
| 1. 生物化学分析 | 1) 臨床化学検査　　　　　　　　　　　　　　　　 |
| 2) 免疫血清検査 |
| 2. 臨床生理 | 1) 神経生理検査 |
| 2) 循環・呼吸生理検査 |
| 3) 画像診断検査 |
| 3. 病理・細胞 | 1) 病理検査 |
| 2) 細胞検査 |
| 4. 臨床一般 | 一般検査 |
| 5. 臨床血液　　　　　　　　　　　　　　　　　 | 血液検査　　　　　　　　　　　　　　　　　　 |
| 6. 臨床微生物 | 微生物検査 |
| 7. 輸血細胞治療　　　　　　　　　　　　　　　 | 輸血検査 |
| 8. 遺伝子 | 遺伝子検査 |
| 9. 臨床検査総合 | 1) 検査管理 |
| 2) 医療情報 |

＜精度管理調査委員会＞

|  |  |
| --- | --- |
| 実行委員長 | 副実行委員長 |

3. 平成30年度（第34回）沖縄県医師会臨床検査精度管理調査の実施

　県内の約90施設を対象に、今年度同様、生化学・免疫検査、微生物検査、血液検査、一般検査、輸血

検査、生理検査、病理・細胞検査の8分野について実施予定（8月頃予定）。

4. 第67回日本医学検査学会in浜松の開催

会期：平成30年5月12日(土)・13日(日)

会場：アクトシティ浜松、オークラアクトシティホテル浜松、ホテルクラウンパレス浜松

テーマ：「Let’s go this way ～その道を進もう～」

5. 平成30年度日臨技九州支部医学検査学会第53回（大分県）の開催

会期：平成30年10月6日(土)・7日(日)

会場：別府国際コンベンションセンターB-Con Plaza（別府市）

テーマ：「協～多職種との連携と、他職種との協働～」

6. 第10回沖臨技新人宿泊研修会の開催

　日時：平成30年6月30日（土）・7月1日（日）

　場所：ペンションきちむい（宜野座村）

対象：1～3年目

　※技師会の組織・各業務内容の説明、技師連盟、各学術分野長によるレクチャー等。

7. 機関誌の発行

今年度も、学会誌を含んだ沖縄県臨床検査技師会誌第55巻を発刊する。論文や学術関連、啓発活動な

どの年間行事だけでなく、一般会員に反映できる場として位置づけていきたい。今年度の編集長は、天

願部門長（那覇市立病院）が担当し、9名の部門長、医療情報分野長、学術副会長中心に編集していく。

8. 各種研修会

　日臨技より1研修会につき5万円の助成金制度（最大20研修会：100万円まで）は、平成28年から

2万円プラス参加人数1名につき500円の申請方式になっている。平成29年度の沖縄県では8研修会

のみの実施で、不本意な結果となった。地理的制約など不憫な面からも、この助成金制度を活用して、

充実した研修会を今年度は多数展開していきたい。

9. 部門長会議の継続

　学術理事、部門長、分野長を含めた学術会議は、偶数月の年6回開催している。現在、学術関連事業が

多く、学術担当副会長の役割がかなり厳しい状況にある。一昨年度から学術委員の核にあたる部門長を

中心とした部門長会議を不定期で開催しており、今年度も引き続き継続していきたい。